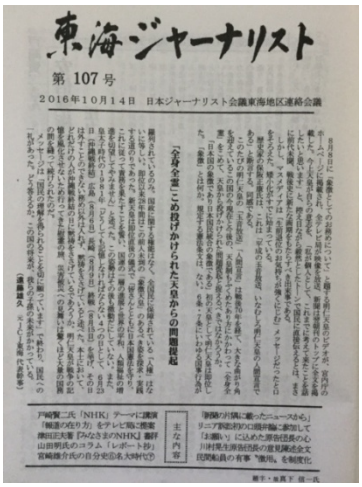
東海ジャーナリスト第 107 号


東海ジャーナリスト
第 107 号
2016年10月14日　日本ジャーナリスト会議東海地区連絡会議

「全身全霊」こめ投げかけられた天皇からの問題提起

主な内容

10 月 14 日発行の第 107 号も読みごたえがある。まず、巻頭で遠藤雄久・元 JCJ 東海代表幹事が「全身全霊」こめ投げかけられた天皇からの問題提起、と題して問題を投げかける。長年ジャーナリストとして活躍されてきた、遠藤さんならではの鋭い問題提起である。遠藤さんからはメディアについて多くのことを学んできた。

ついで、元 NHK ディレクターの戸崎賢二さんが「安倍強権政治に揺らぐテレビ報道 圧力はね返す市民と NHK 内部の力を」と題して、11 ページにわたって論じる。今年の「平和を語る 8・15 名古屋集会」での講演をもとに書かれた。残念ながら集会に参加できなかったので、詳しい論文紹介はありがたい。民間船員の有事〝徴用〟を制度化、リニア訴訟など、このほかにも参考になることが多い。

東海ジャーナリスト前号から、「ナゴヤから発信 辛口レポート抄」が掲載されることになった。これは本誌編集者の古木民夫さんが、私のレポートを愛読くださり、それが「縁」で誕生したものだ。ベテランのプロの編集者が、私のレポート集のなかから数本選んで「辛口レポート抄」として編集する企画だ。興味深いのが、どのレポートを選んでもらえるか、ベテラン・プロの「目」を知ることができることだ。レポートの写真がなく、活字だけなのは残念だが、多くのジャーナリストの皆さんに私のレポートを読んでもらえるので嬉しいかぎりだ。

さて今回は、5 本のレポートが 4 ページにわたり掲載されている。どんなレポートが選ばれたか。収録レポートのテーマを書いておこう。

1%に押しつけて99%が安らぐ構図
戦前回帰めざす日本会議の情念
◆◆ナゴヤから発信
名古屋市立大学
辛口レポート抄◆◆
山田明名誉教授
魅力のない大都市なごや断トツ1位

・1%に押しつけて 99%が安らぐ構図
・戦前回帰めざす日本会議の情念
・魅力のない大都市なごや断トツ 1 位
・またも見切り発車 伊方原発の再稼動
・差別を断ち切る言葉紡がぬ政治

書きたいこと、書かねばならないことは多い。これからも書き続け、発信していこう。

（2016 年 10 月 21 日）